

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第52号(20131011)

発行 竹田 幸男

第17回 大阪アマチュア映像祭



10月20日(日)、大阪市立中央図書館で大阪府下9映像クラブからの18作品が上映され、寝屋川市映像協会からは新井副会長の「はず酒を楽しむ」竹田会長の「インクライン 琵琶湖疏水物語」を出品し好評を得ました。

市民活動センター「ふれあいフェスタ」に参加



11月9日(土)「がんばっている人(たち)」のテーマで出展、このテーマに沿った会員の19作品を集めて、ロッカ

ールームで作品を連続上映し、一方和室前のワーキングスペースでは、目録から作品を選んでモニターとヘッドホンで個人的に視聴してもらう「映像図書館」を開き、私たちの活動をアピールしました。

例会の窓

平成25年10月例会

日 時 平成25年10月11日(金)

13:30～16:30

場 所 寝屋川市民活動センター

4階 ワーキングスペース

出席者：天野 新井 石田 小林 佐伯 竹下 竹田 田淵 富田(50音順・敬称略)

欠席者：1名

例会次第

1. 各会員の最近の活動状況・情報交換

2. 映写・合評

(1) 新井さん 寝屋川囲碁将棋まちづくりの会

囲碁将棋教室 18分

- ・映像と音声はずれている所がある。原因は？
- ・教室が何処で開かれているか、周囲の映像があるといい。
- ・子画面に入れたインタビューの映像を、もう少し大きくした方がいい。

(2) 新井さん 住吉神社囲碁将棋まつり 19分

初心者教室 14分

指導囲碁将棋 13分

(3) 竹田さん 第2回文化連盟展 30分

- ・今年2月の表題の行事を撮影・編集したもの。
- ・映像をやっていると行事の撮影を頼まれることが多い。そのとき、どのように作るかの参考にして欲しい。
- ・早送りで要所を見てもらった。

3. 報告・連絡・協議事項

(1) NVC Monthly 10月記事筆者 竹下さん

(2) 大阪アマチュア映像祭 10/20(日)

- ・今年は新井・竹田作品を出品している。多くの会員の観覧を。

(3) 文化連盟会員親睦研修会 10/7(月)実施

- ・好天に恵まれ、伊根の船屋、天橋立、出石を周遊して無事終了。

(4) 市民文化祭 映像作品発表会は 11 / 2 (土)

- ・総合センター 4 階視聴覚室に 9 : 30 集合、10 : 30 より映写。

(5) ふれあいフェスタ対策

- ・今年の映像協会のテーマは「がんばっている人(たち)」
- ・ロッカールームでの大映写と、展示スペースでの「映像図書館」を、このテーマを中心に行う。
- ・大映写は、沢山の参観を見込める会員数の多い団体の映像映写。
- ・映像図書館は会員の今までの作品を集めて、その中から個人的に見てもらおう。
- ・DVDプレイヤーまたはDVDレコーダーとテレビのセットを2 - 3セット並べ、ヘッドホンで視聴してもらおう。会員をサクラとして、本当の客が来たらサクラは交代してもらおう。
- ・当番者 新井 天野 小林 竹田 富田 弁当を注文しておく。

(6) 映像協会撮影会

- ・実施日：11月24日(日) 雨天の時は11月27日(水)
- 場 所：服部緑地公園 地下鉄御堂筋線「緑地公園」で下車
- 集合時間：緑地公園駅プラットフォームで10時
- 昼 食：各自弁当持参
- ・次はどうするか(26年春?)

(7) 今年の忘年会は

- ・日 時 12月1日(日) 11時40分集合 12時開宴 14時30分終宴
- ・場 所 寝屋川市駅前 がんこ
- ・会 費 4,500円

(8) 懐かしの8ミリ映画を楽しむ会(9 / 16(月))の結果報告

(9) 映像フェスティバルは来年5月31日(土)

- ・3月にはプログラムを決定するので、来年1・2月には作品を映写して検討する。各人作品の準備をお願いする。

(10) 同好会ビデオ作品発表会

- ・26年秋～27年春(詳細未定)

4. 会員の当面する問題点質疑応答

5. 来月の例会開催日(11 / 15(金))ワーキングスペースで。

6. 次回のカメラ当番(竹下さん)



アメリカ旅行随想

竹下 功

五年前、パスポートの期限が切れる直前、アメリカのイエローストン国立公園を二十年ぶりに訪れたとき、これが私の海外旅行の最後になると思っておりましたが、毎年訪ねて来る友人が去年も今年も来ていないとなれば此方から行かざるまいと、またアメリカへ出かけることになりました。

幸いパスポートは寝屋川市役所で交付を受けられましたので楽でした。

慣れた所なので息子一人で行ってこいと言っていたのですが、やはり旅は道連れ、私でも役に立つこともあります。

その友人を訪ねるだけではつまらないので、これも二十五年ぶりにヨセミテ国立公園と、いずれもシエラネバタ山脈の西山麓に広がる、セコイアが生き残っている二つの国立公園（ヨセミテの一部であるマリポサ地区とセコイアキングスバレー国立公園）とその周辺の国有林を見て回り、其の後モハーベ砂漠を抜け、途中飛行機の墓場と言われる場所や、スペースシャトルで有名なエドワーズ空軍基地などを外から眺めて一挙にロス郊外の友人宅へ走りました。

折角行くのだから今回は問題の新鋭機ボーイング787に乗ってみようという事で、成田発サンノゼ行きという変わったコースで日本を旅立ちました。

サンノゼはシリコンバレーのある所で、787は事故続きでも機内は満席でした。座席は一寸広いとのことですがエコノミーはあまり変わりはありません。トイレが洗浄便座である事は画期的で扉を開くと赤や青の照明に目をとられて一瞬此处はトイレなのかと立ちすくむと、おねえさんが、「中に入ってロックすると普通の照明になります」と教えてくれました。

前の座席の背もたれの裏に液晶パネルがついていて、ニュースでも映画でもゲームでも出来ますが、これは帰りに乗った777でも同じなので787で新登場ではありませんでした。

液晶パネルは正面から外れた方角から見ると色がめちゃくちゃになりついには見えなくなる欠点を改善するのにテレビ用では随分苦労した訳ですが、この欠陥を逆に利用して、隣の席から見ると画面に何も映っていないような超欠陥のパネルを使うことによりプライバシーを確保していることに、なるほどと思いました。

サンノゼの空港はこんな所に国際線が発着するのと思うほど小さい空港ですが、787のおかげで足の長い小型機が日本からダイレクトに飛来しビジネスマンは直ぐにシリコンバレーに仕事に行けると言う訳のようです。

此処からヨセミテ国立公園までの距離は途中マーセドと言う小さな町で泊まりましたが直線距離で併せて145km位の距離です。まあ近い所と言っていいでしょう。

ヨセミテ国立公園は1864年に州の景観保護区となり1890年にアメリカで最初の国立公園となりました。世界で一番古くまた有名な国立公園です。

私は従来一週間以上の旅行、特に海外旅行は大概6月の末に行く事にしていました。其れは家の庭にいろいろな植物を植えているものですから、夏は水管理が難しいので梅雨の時期に行くのが好都合なのです。

前回のヨセミテ行きも将にこの時期でした。この時期は雪解け水で川の水量が多く、滝が一つの見所であるこの公園を訪れるのには最も良い時期だったのです。

そのことはある程度分かっていたのですが、行ってびっくり、有名なヨセミテの大滝は水は一滴も流れていませんでした。

おまけにこの季節は空気中の水分が多く雨こそ降りませんでしたが遠方は霞んでしまい良いビデオが撮れませんでした。

アメリカ西海岸は5回目ですが、透けるような青空が当たり前と思っていたものだからがっかりしました。

この公園の有名なフォトグラフィックポイントにトンネルビューという所がありますが、此処の眺めは雄大な岩峰、エルキャピタンと三兄弟と名付けられた岩峰の間はるか向こうに氷河が巨大な岩山を半分削り取ってしまったというハーフドームと言う岩峰が見えるのですが、この日は霞んでやっと見える程度でした。

9月になるとオフシーズンでお客が少なく良いとのことでしたが滝が干上がって空が青くないヨセミテは一寸がっかりでした。

前回のイエローストン国立公園も、これは季節とは関係ないと思うのですが、地下のマグマの活動の変化あるいは地下水の流れの変化で景色がすっかり変わっていてがっかりしたのですが、今回もちょっと当て外れで、やはり情報をしっかり集める必要を痛感しました。

然し私たちがアメリカから帰って十日程して、国立公園がすべて閉鎖になったあの事件を思えばまあ良かったと思わないわけにはゆきません。

ヨセミテを見た後、古い植物セコイアが生き残っている所を見て回りました。この木は高さにおいては世界一ではありませんが、体積では今地球にある生命体で最大の体積を持ちシロナガスクジラも及びません。しかし背の高い巨木なので、横長画面のビデオには扱いにくい代物でした。

この木は他の木の間にはぼつりぼつりとある程度ですので一つの画面に二、三本もあれば良い方で、縦方向は下の方半分位しか画面に入りませんのでこの木

の巨大さを一目で分かるような写真になりません。

ヨセミテ国立公園の一部になっているマリポサグローブには昔トンネルツリーと言って、木の根元が空洞になってトンネル状になり其処にトラックが停まっている写真が教科書によく載っていました。今その木は枯れたそうですが、人が通れるトンネルツリーは他にもありました。

ここにはセコイアの木は五百本くらいあるそうですが、トラムに乗って見て回ることが出来ます。今は園内の解説はヘッドフォンで聴くことが出来日本語バージョンがあります。

ビデオを撮りながらこの解説を聞いているとふとこの音声が入っているような錯覚を起こしましたが、当然録音する事は出来ません。ヘッドフォンをカメラのマイクに近づけたらなんとかなったかも知れませんが、そんな気を回す余裕はありませんでした。

此処で一番大きなセコイアはグリズリージャイアントと名付けられ根元の直径8.7m、周囲29m高さ62mあるそうです。

此処からロスアンゼルスへ向かう99号という道を南に下ってフレズノと言う町で東に曲がって山に入るとキングスキャニオン国立公園があります。此処の有名なセコイアはグラント將軍の木と呼ばれ園内で3番目に大きい木で根元の直径12.3m、周囲32.8m、高さ81.5mあるそうです。

この山中をさらに南下すると隣接してセコイア国立公園があります。此処の有名なセコイアはシャーマン將軍の木と呼ばれ根元の直径11m、周囲31.3m、高さ83.8mで前者より小さいようですが幹の体積から世界で一番大きな生物と考えられています。

この木は比較的道に近い場所に有るのですが道沿いの駐車場は身障者用で、一般の駐車場は其処からかなり高い所まで登らねばなりません。もとはスキー場だったところだそうで一本の木も切らずに作られたとの事ですが其処からシャーマン將軍の木迄ずいぶん歩いて下りてこなければなりませんでした。これをまた登るのは大変で私は一人下へ下って、身障者用の駐車場で待ち合わせしましたが、トイレなど良い設備がしてありました。こういうところがアメリカらしいところです。

このあたりはかなり海拔が高いようで、其処からの下り道はすさまじいワインディングロードでアメリカにもこんな道があるのだと驚きましたが、道幅は流石に十分広く対向車も殆どありませんでしたので怖いことはありませんでした。

道のことで思い出しましたが、今回は通ったことの無い道が多かったのでAA(JAFみたいなもの)の分厚い全国地図で細い一本の線で書かれている道はどの程度の道か分からない、遠回りでももう少し広そうな道を選ぶべきか迷う

所なのですが、今はグーグルでその道を実際に走っている動画が見られますので、そんな道でも結構広くて心配ないと判断でき安心して走れました。

一方カーナビはアメリカでもやっとレンタカーにも付くようになりましたが、目的地は電話番号しか入力できず日本のように便利ではありませんでした。まあ広い国なので日本のように行き届かないのもやむを得ないことかも知れません。それでも結構役に立って、目的の町まで来たが予約した宿へ行く道が

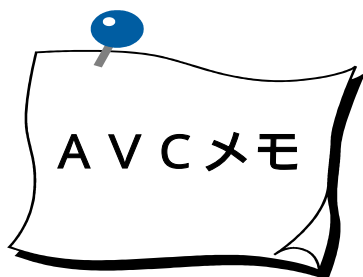


分からないことはしばしばで、この時宿の電話番号を入力すればちゃんとガイドしてくれました。

ある町ではフリーウエーから下の普通の町の道に下りる方法が分からず困ったことがありましたが、ナビのおかげで目的地に着くことが出来ました。

左の写真はシャーマン将軍の木で、上はまだありますがいくらでもバックできる訳ではありませんので上が切れてしまいました。おまけにもう一寸下を入れれば、General Shermanの字が切れずに入るのに切れてしまいました。

推定樹齢 2300～2700年とのことです。



4対3映像のDVD化の課題

竹田幸男

曾てテレビ画面の横と縦の比率は4：3（よんたいさん）でした。放送はそれに合わせて4：3でしたし、アマチュアの映像も当然4：3で作っていました。

ある時期にワイドテレビ、というものが出来て来て、放送電波のほとんどは4：3なのですが、それを16：9の横長画面に映そうとして、色々の工夫を凝らしました。画面一杯使おうとすれば横の長さを広げることになり、人の顔が横に広がってふくれっ面になるので、画面の中心近くでは、あまり広げず、端の方へ行くに従って横広がりにする、というような工夫がなされていました。そのノウハウがメーカーごとに競われたのが当時の話題になっていました。

そのうち衛星放送や地上波デジタル放送になると本当の16：9の映像が放送されるようになり、ふくれっ面は解消しました。

この、放送電波の多くが4：3で、画面だけが16：9の「ワイドテレビ」時代に、ビデオカメラは16：9の「ワイドモード」を始めました。アマチュアカメラマンがワイドテレビの恩恵を放送より早く享受した時代です。

このころは、ビデオカメラや、ビデオデッキは、再生された映像が4：3なのか、16：9なのか、とということを見分けて、テレビに向かって「これはワイドモードで撮影した映像です。」という信号を出し、テレビの方はそれを使って撮影時のモードに合わせて4：3にしたり、16：9にしたりする仕事をしていました。DVDも初期の時代は4：3と16：9が混在しており、この仕事はテレビにとって大切な仕事でもあったのです。

ある時期から、テレビはこのような仕事をしなくなりました。放送電波はすべて16：9になり、DVDなども16：9になり、区別の必要がなくなったのです。しかしアマチュア映像や古いDVDを見るときには区別の必要があるのですが、テレビの方でその仕事を放棄してしまったのです。すなわち4：3で作った映像は、自動的に横広がり、ふくれっ面に映すようになってしまったのです。

この事態に合わせて私たちは曾て作った4：3の映像を皆さんに正しく見ってもらうためには工夫をしなければなりません。すなわち4：3の画面の横に詰め物をして16：9にしてテレビに与えてやらなければなりません。具体的には編集ソフトで16：9のプロジェクトを作り、16：9の横長画面の中に4：3の画面を入れ込まなければなりません。今市場に出ている映像編集ソフトは、この機能を備えているものが多いと思われるので、ご自分の使っているソフトの機能を確かめてください。